

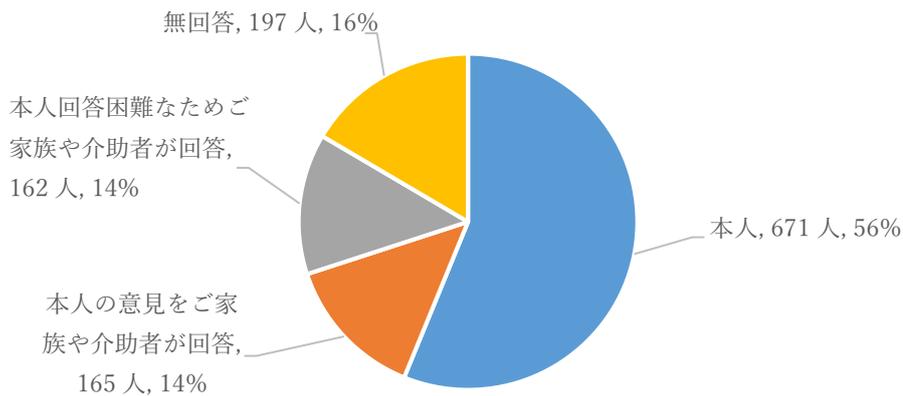
## 1 回答者

### (1) 回答される方について

回答者は、図1「回答者」のとおりであり、本人の意見(家族等回答含む)、約56% (671人)と最も多かった。

図1「回答者」

#### 【問1】 お答えいただくのはどなたですか？



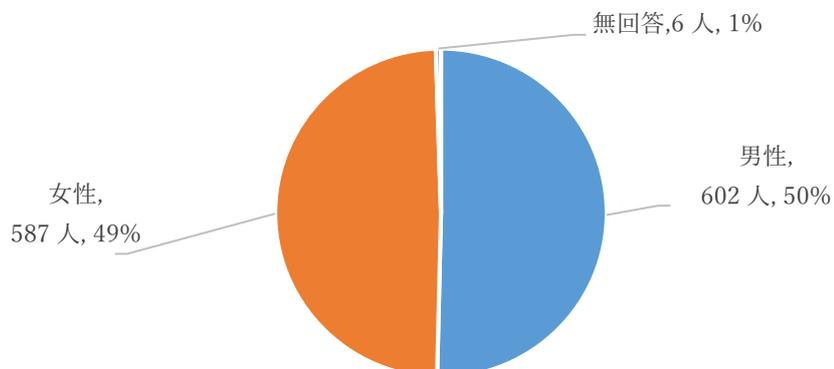
## 2 調査対象者の性別、年齢、地域、同居している人、介助者の年齢

### (1) 性別

性別については、図2「性別」のとおりである。

図2「性別」

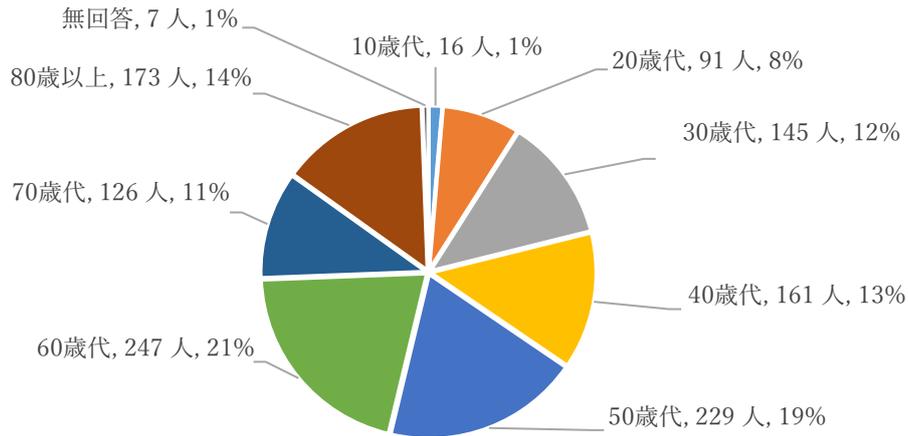
#### 【問2】 あなたの性別は？



- (2) 年齢  
 年齢については、10歳代から65歳が7割程度であり、詳細は、図3「年齢」のとおりである。

図3「年齢」

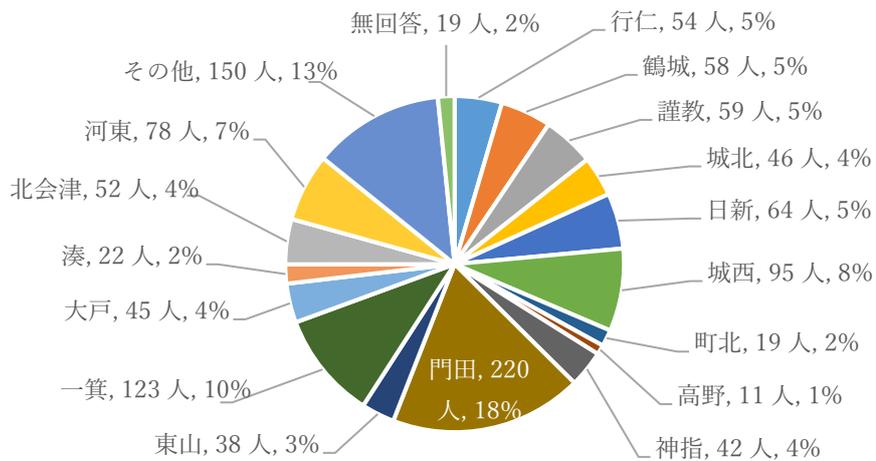
【問3】 あなたの年齢は？



- (3) 暮らしている地域  
 暮らしている地域は、図4「地域」のとおりである。

図4「地域」

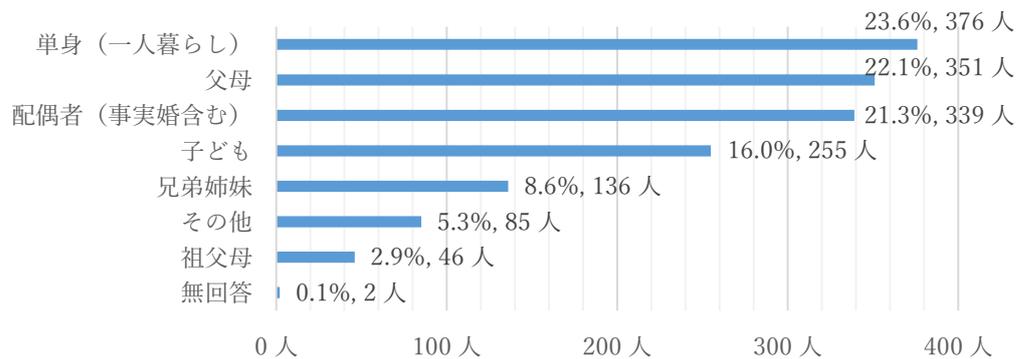
【問4】 あなたの暮らしている地区は？



- (4) 一緒に暮らしている人  
 一緒に暮らしている人は、図5「一緒に暮らしている人」のとおりである。単身、父母、配偶者が高い割合となっている。

図5「一緒に暮らしている人」

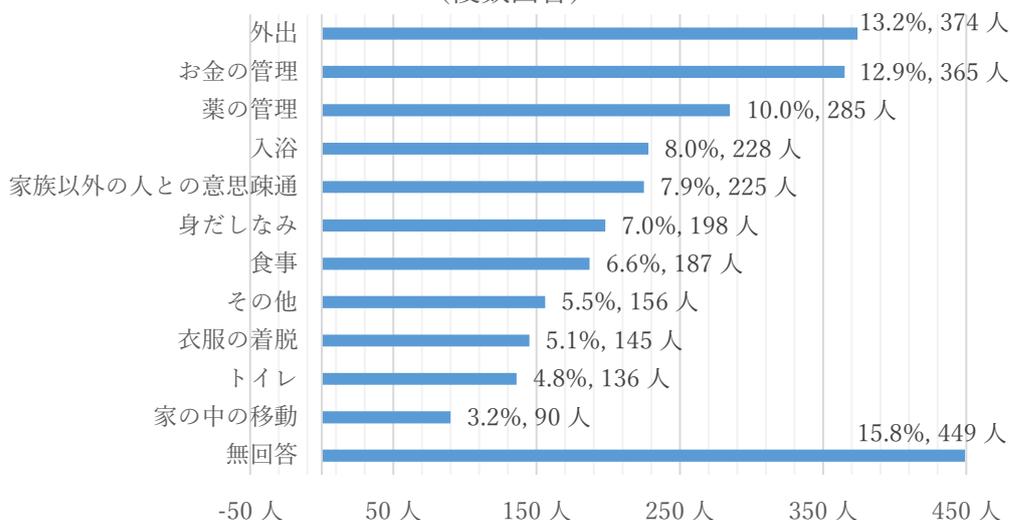
問5：あなたが一緒に暮らしている人は、  
 どなたですか？（複数回答）



- (5) 介助が必要なもの  
 日常生活で介助が必要なものについては、図6「介助が必要なもの」のとおりである。外出支援やお金の管理が高い割合となっており、薬の管理がそれに続いている。

図6「介助が必要なもの」

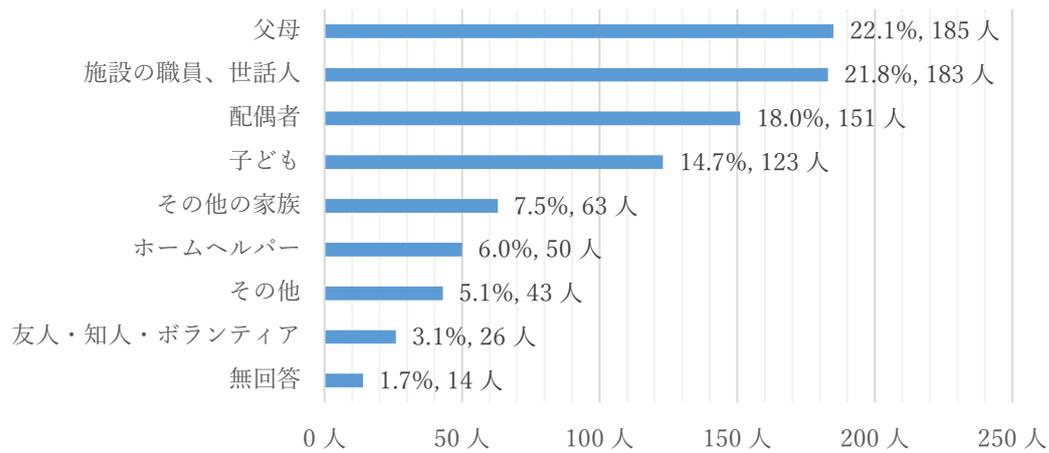
問6：日常生活で、介助が必要なものがありますか？  
 （複数回答）



- (6) 介助してくれる人  
 介助してくれる人は、図7の「介助してくれる人」とおりである。父母、施設の職員、世話人が高い割合となっている。

図7「介助してくれる人」

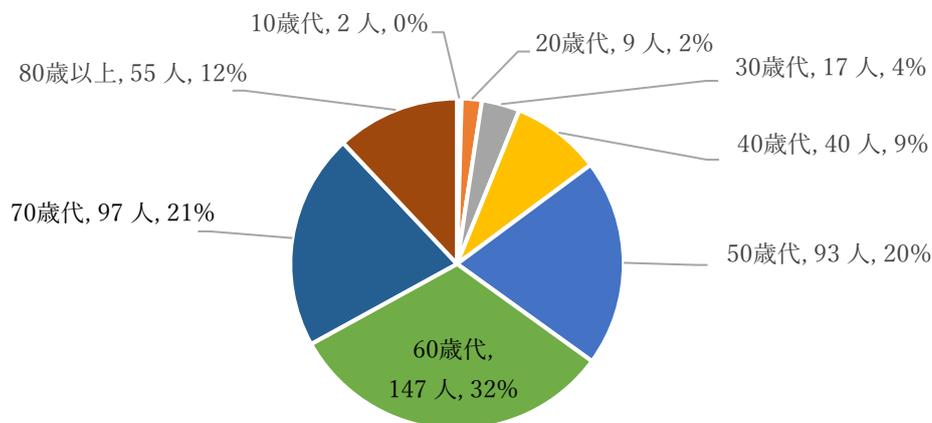
【問7】 介助してくれる方は誰ですか？（複数回答）



- (7) 介助者の年齢  
 介助者の年齢は、図8の「介助者の年齢」とおりである。80歳以上1割を超えている。

図8「介助者の年齢」

【問8】 介助者の年齢は？



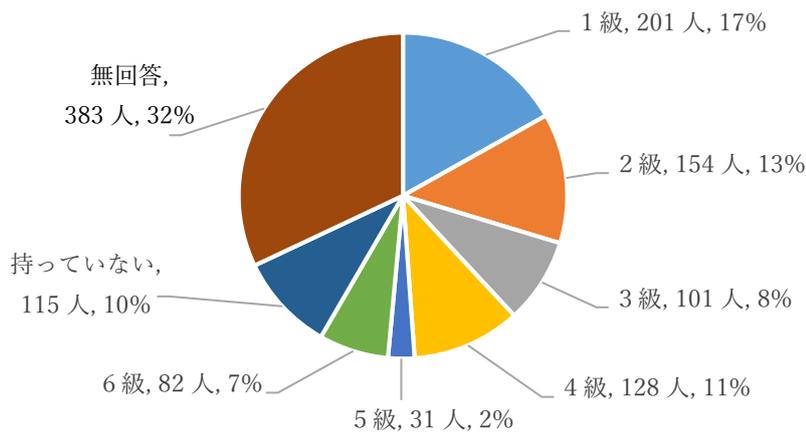
### 3 障がいの状態

#### (1) 身体障害者手帳の等級

身体障害者手帳の等級については、図9-(1)「身体障害者手帳の等級」のとおりである。

図9-(1)「身体障害者手帳の等級」

#### 【問9】 - (1) 身体障害者手帳の等級は？



#### 【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

等級	年代	20歳代 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	年齢 無回答
1級		0	6	18	24	49	53	23	28	0
2級		0	5	9	11	42	40	28	17	2
3級		0	1	6	8	19	37	12	18	0
4級		0	2	4	10	31	30	10	41	0
5級		0	3	2	5	6	10	2	3	0
6級		1	0	0	4	6	8	18	45	0
未所持		5	20	16	17	17	15	15	10	0
等級無回答		10	54	90	82	59	54	18	11	5
合計		16	91	145	161	229	247	126	173	7

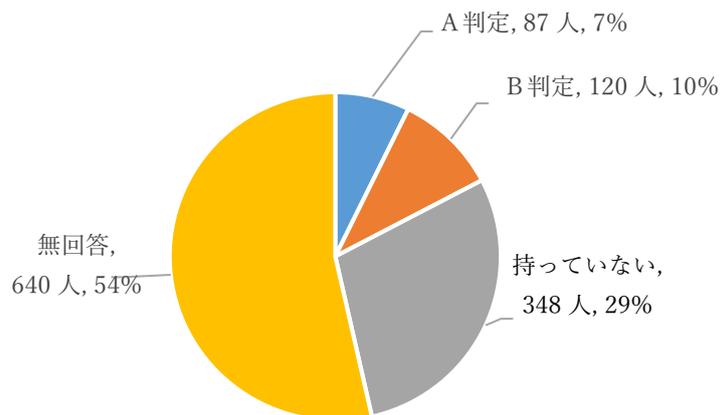
年代別でみると、1級、3級所持者では60歳代が最も多かったが、2級、4級所持者では、僅かではあるが50歳代が最も多い結果となった。

また、6級所持者では、80歳以上の方が最も多かった。

- (2) 療育手帳の等級  
 療育手帳の等級については、図9-(2)「療育手帳の等級」のとおりである。

図9-(2)「療育手帳の等級」

【問9】-(2) 療育手帳の等級は？



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

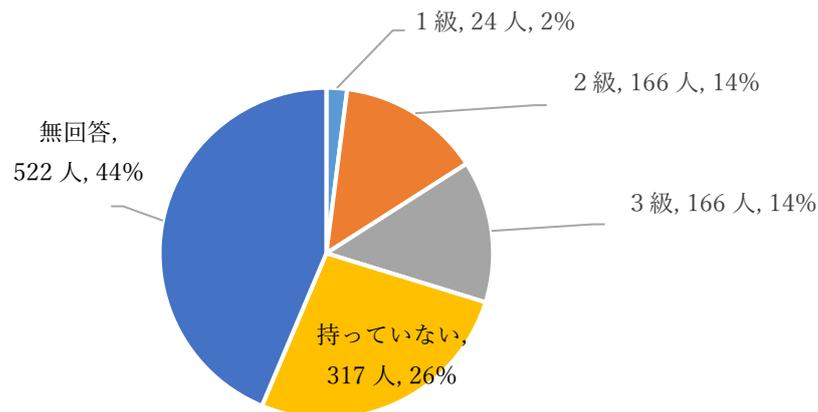
判定	年代	20歳代 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	年齢 無回答
A判定		4	21	23	13	6	10	7	2	1
B判定		4	26	33	19	16	15	7	0	0
未所持		3	21	29	29	58	88	42	76	2
判定無回答		5	23	60	100	149	134	70	95	4
合計		16	91	145	161	229	247	126	173	7

年代別でみると、A判定・B判定ともに、30歳代が最も多く、次いで20歳代が多い結果となった。なお、50歳代、60歳代に無回答者が多い為、今後もより良いサービスの提供と共に注視していく必要がある。

- (3) 精神障害者保健福祉手帳の等級  
精神障害者保健福祉手帳の等級については、図9－(3)「精神障害者保健福祉手帳の等級」のとおりである。

図9－(3)「精神障害者保健福祉手帳の等級」

【問9】－(3) 精神障害者保健福祉手帳の等級は？



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

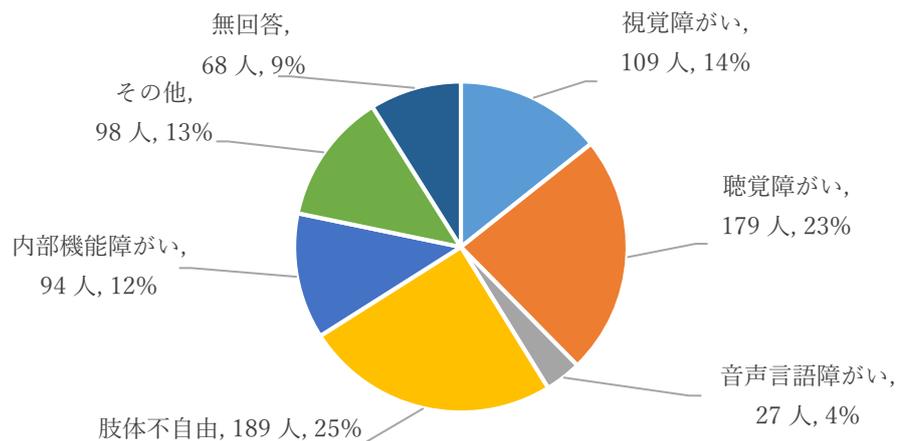
年代 等級	20歳代 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	年齢 無回答
1級	0	0	3	2	1	8	6	4	0
2級	2	14	28	39	37	27	14	3	2
3級	5	19	33	37	30	31	9	2	0
未所持	3	19	10	29	61	72	42	79	2
等級無回答	6	39	71	54	100	109	55	85	3
合計	16	91	145	161	229	247	126	173	7

年代別でみると、1級所持者は60歳代が最も多く、次いで70歳代が多い結果となった。2級所持者は40歳代が最も多く、次いで50歳代が多い結果となった。3級所持者は40歳代が最も多く、次いで30歳代が多い結果となった。

- (4) 身体障害者手帳をお持ちの方の主な障がい  
 身体障害者手帳をお持ちの方の主な障がいは、図9-1の「身体障害者手帳所持者の主な障がい種別」のとおりである。

図9-1「身体障害者手帳所持者の主な障がい種別」

【問9-1】身体障害者手帳をお持ちの方の主な障がいは？



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

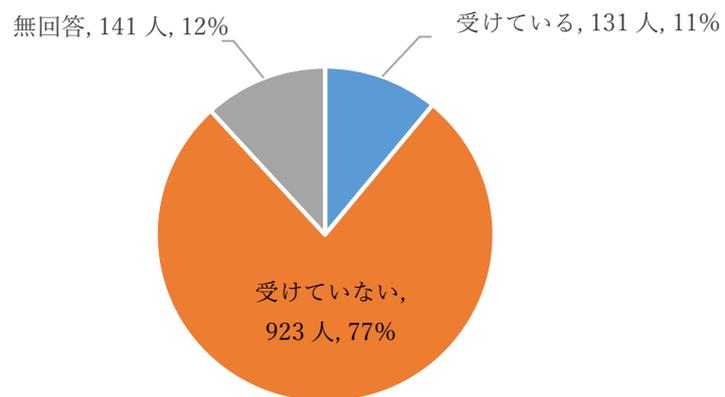
主な障がい	年代									年齢 無回答
	20歳代 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上		
視覚障がい	1	1	1	4	10	22	31	36	0	
聴覚障がい	0	2	3	5	4	18	37	104	0	
音声言語障がい	0	0	0	1	0	7	9	9	0	
肢体不自由	0	8	16	24	69	60	5	3	2	
内部機能障がい	0	1	10	12	40	26	1	2	0	
その他	0	4	3	11	25	28	7	3	0	
無回答	0	1	7	4	7	18	8	2	0	
合計	1	17	40	61	155	179	98	159	2	

年代別でみると、視覚障がい・聴覚障がいは80歳代以上が最も多く、年齢に比例した推移となった。肢体不自由者は50歳代が最も多く、次いで60歳代が多い結果となった。

- (5) 難病の認定  
難病の認定については、図10の「難病の認定」とおりである。

図10「難病の認定」

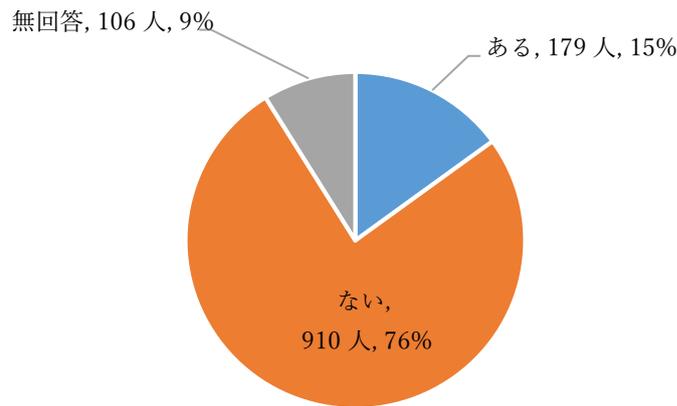
【問10】 難病の診断を受けていますか？



- (6) 発達障がいとしての診断  
 発達障がいとしての診断の有無については、図11「発達障がいの診断の有無」とおりである。

図11「発達障がいの診断の有無」

【問11】 発達障がいとして診断を受けたことがありますか？



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

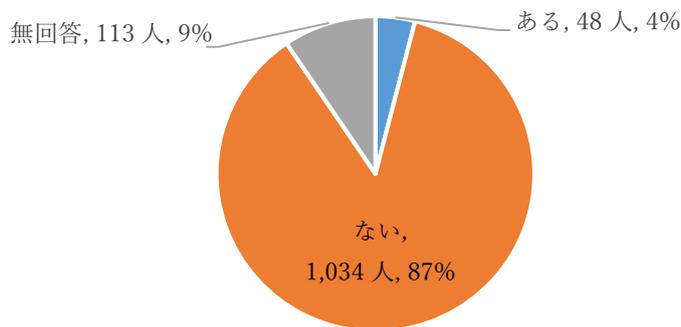
診断有無	年代	20歳代 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	年齢 無回答
	ある		11	50	53	32	17	11	3	1
ない		3	36	80	117	190	214	108	158	4
有無無回答		2	5	12	12	22	22	15	14	2
合計		16	91	145	161	229	247	126	173	7

発達障がいとして診断されたことがあると答えた方は、30歳代が最も多く、次いで20歳代が多い結果となった。

- (7) 高次脳機能障害としての診断  
高次脳機能障害としての診断の有無については、図12「高次脳機能障害の診断の有無」とおりである。

図12「高次脳機能障害の診断の有無」

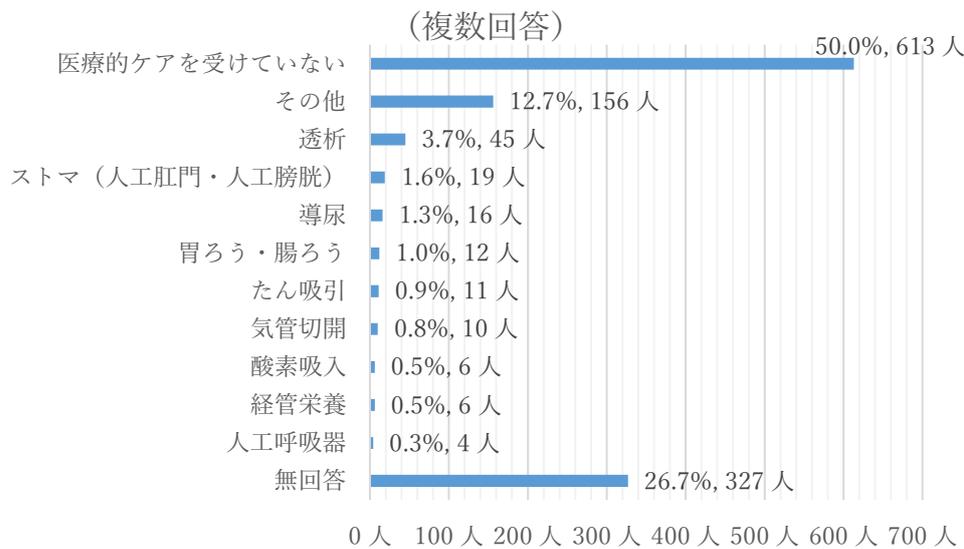
【問12】高次脳機能障害がいつとして診断されたことがありますか？



- (8) 現在受けている医療的ケア  
現在受けている医療的ケアについては、図13「現在受けている医療的ケア」とおりである。受けていないが50.0%と最も多く、次いで透析が3.7%、ストマ(人工肛門・人工膀胱)が1.6%となっている。

図13「現在受けている医療的ケア」

【問13】現在受けている医療的ケアは？



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

年代	20歳代 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	年齢 無回答
医療ケア									
気管切開	0	1	0	2	1	2	1	3	0
人工呼吸器	0	0	3	0	0	1	0	0	0
酸素吸入	0	0	0	2	1	1	1	1	0
たん吸引	0	1	0	3	1	1	1	4	0
胃ろう・腸ろう	0	1	1	2	1	2	3	2	0
経管栄養	0	0	1	2	0	0	1	2	0
透析	0	0	2	6	19	17	0	1	0
導尿	0	1	1	0	4	7	2	1	0
ストマ (人工肛門・人工 膀胱)	0	0	0	1	6	8	0	4	0
その他	0	7	17	16	46	39	15	15	1
医療的ケアを受け ていない	14	59	83	88	96	113	63	93	4
医療的ケア無回答	2	23	41	46	58	59	45	51	2
合計	16	93	149	168	233	250	132	177	7

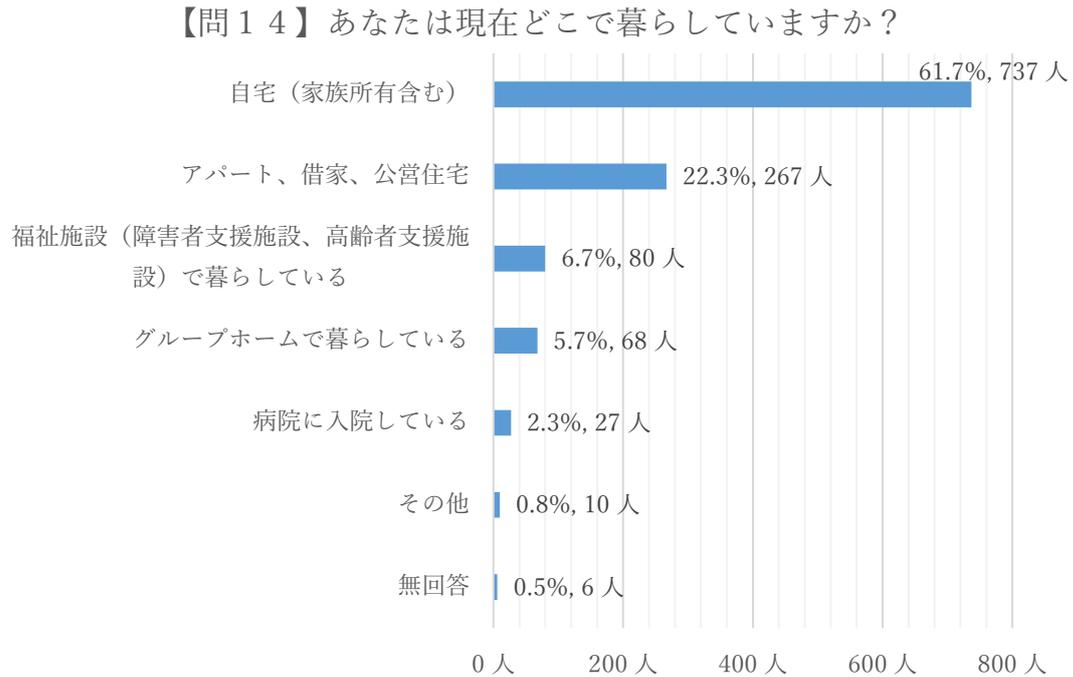
医療的ケアを受けている方で回答数が最も多かったのは、透析で、50歳代が19人で最も多く、ついで同じく透析で60歳代が17人で多い結果となった。

#### 4 住まいや暮らしについて

##### (1) 現在暮らしている場所

現在暮らしている場所については、図14「現在暮らしている場所」のとおりである。自宅が61.7%と最も多かった。

図14「現在暮らしている場所」

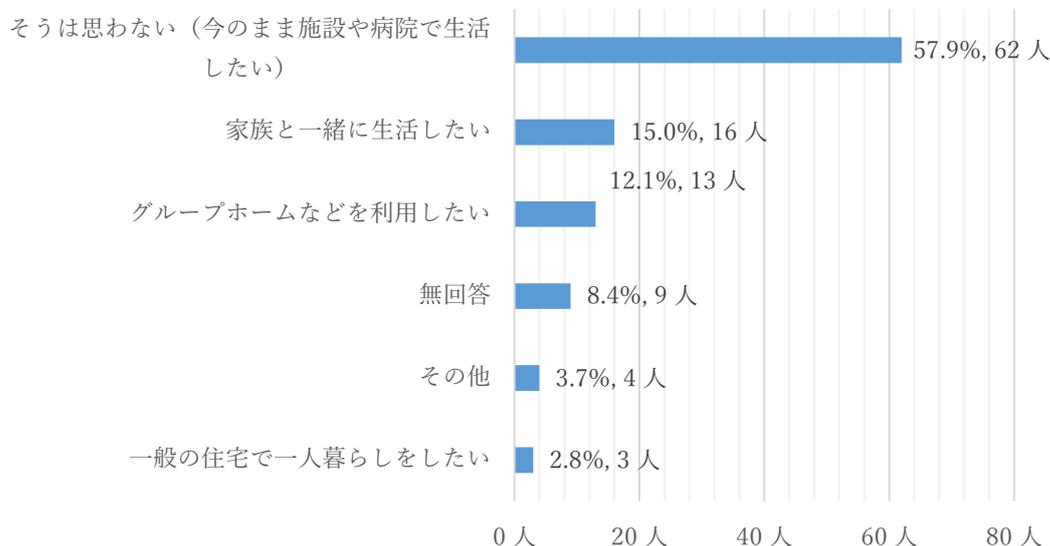


##### (2) 希望する将来の生活の場

希望する将来の生活の場については、問14の「4. 福祉施設」と回答した方と「5. 病院に入院している」と回答した方に限定した質問としており、結果は、図15「希望する将来の生活の場」のとおりである。今のまま病院や施設で生活したいが57.9%で最も多かった。

図15「希望する将来の生活の場」

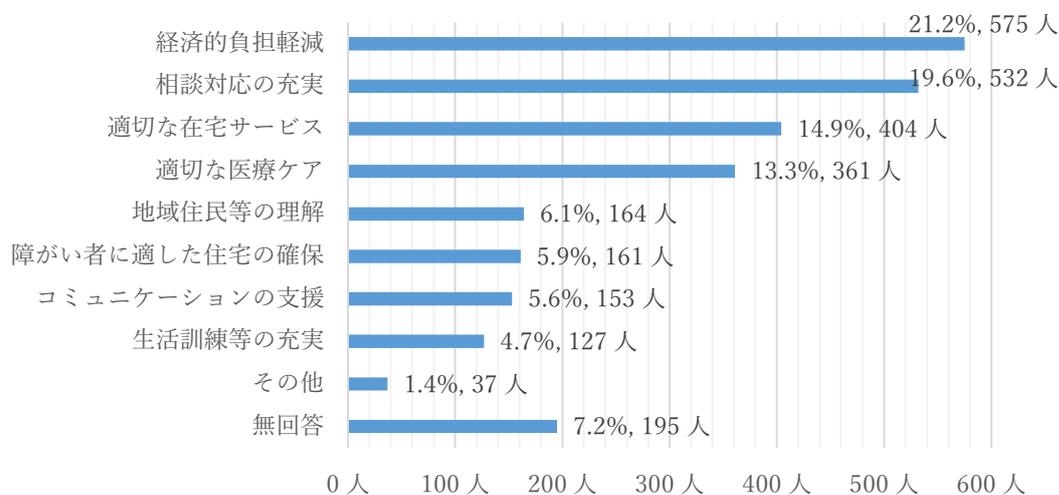
【問15】 【問14】で(4)、又は(5)を選択した場合、将来施設や病院以外で生活したいですか？



- (3) 施設や病院以外に必要な支援  
 施設や病院以外に必要な支援については、図16「施設や病院以外に必要な支援」のとおりである。経済的負担軽減が21.2%で最も多く、次いで相談対応の充実が19.6%と多かった。

図16「施設や病院以外に必要な支援」

【問16】 施設や病院以外で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか（○は3つ）



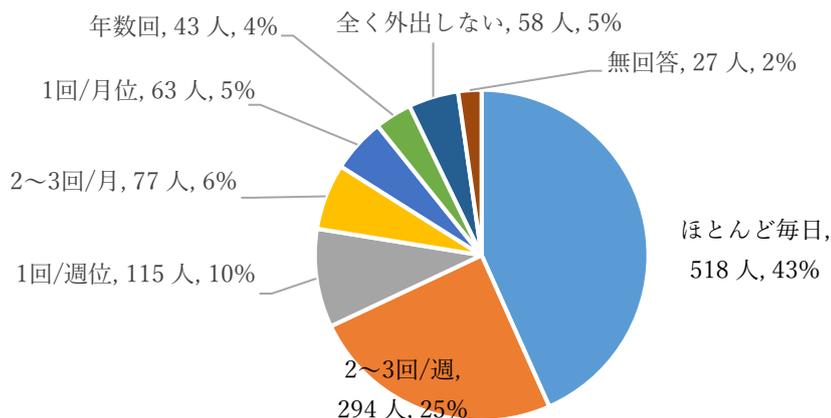
## 5 日中活動や仕事について

### (1) 外出の頻度

外出の頻度については、図17「外出の頻度」のとおりである。ほとんど毎日外出するが43%と最も多かった。

図17「外出の頻度」

#### 【問17】外出の頻度は？

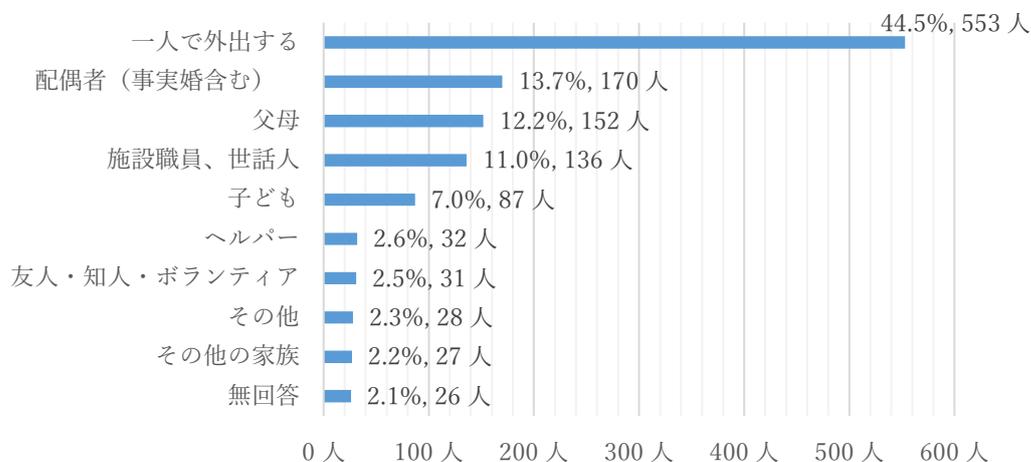


### (2) 一緒に外出する人

一緒に外出する人については、図18「一緒に外出する人」のとおりである。一人で外出する割合が44.5%と最も多かった。

図18「一緒に外出する人」

#### 【問18】誰と外出しますか？（回答1つ）



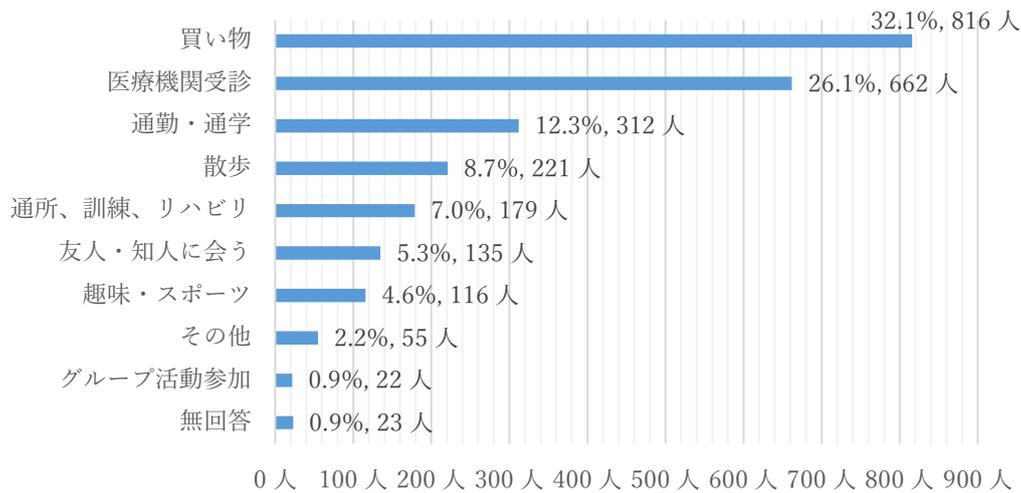
(3) 外出目的

外出目的については、図19「外出目的」のとおりである。

買い物が32.1%と最も多く、次いで通院が26.1%と多かった。

図19「外出目的」

【問19】外出目的は？（回答3つ）

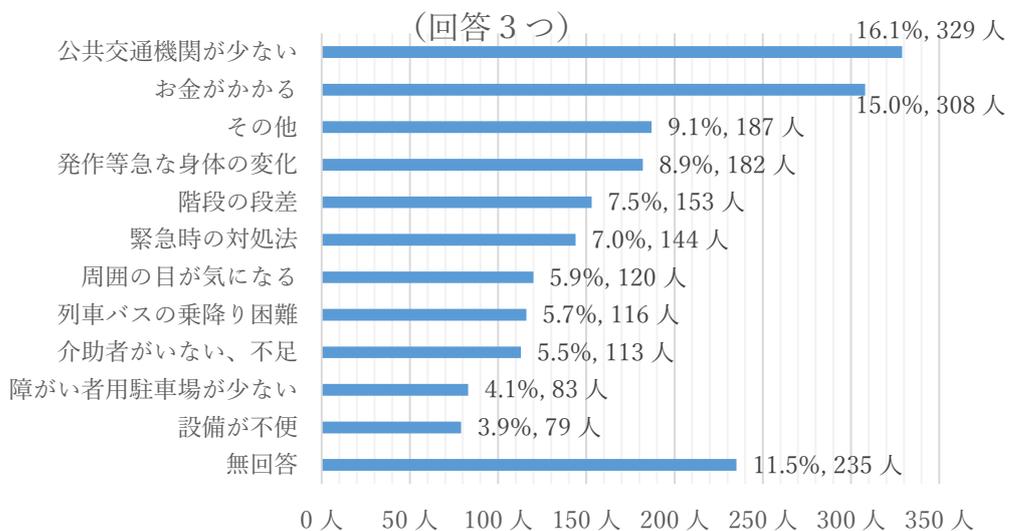


(4) 外出時の困り事や外出しない理由

外出時の困り事や外出しない理由については、図20「外出時の困り事や外出しない理由」のとおりである。公共交通機関が少ないが16.1%と最も多く、次いでお金がかかるの15.0%が外出の阻害要因として挙げられている。

図20「外出時の困り事や外出しない理由」

【問20】外出する時困ることや外出しない理由は？

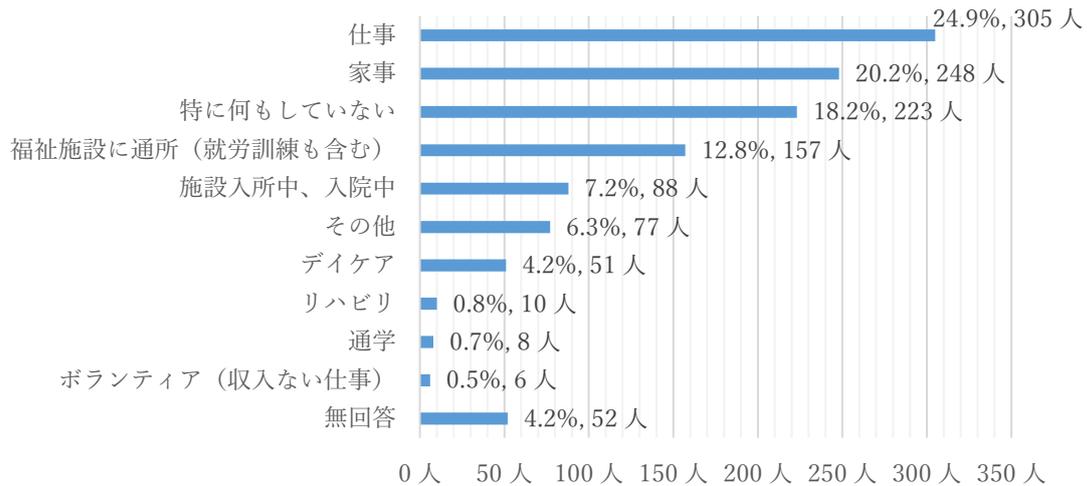


(5) 平日の過ごし方

平日の過ごし方については、図21「平日の日中の主な過ごし方」のとおりである。仕事  
が24.9%と最も多かった。

図21「平日の日中の主な過ごし方」

【問21】 平日の日中の主な過ごし方

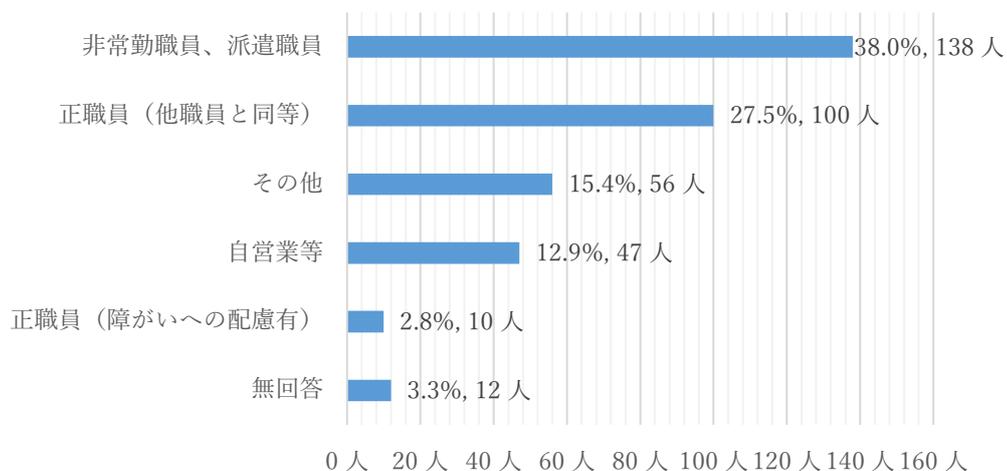


(6) 勤務形態

勤務形態については、図22「勤務形態」のとおりである。非常勤職員、派遣職員が  
38.0%と最も多く、次いで正職員が27.5%と多かった。

図22「勤務形態」

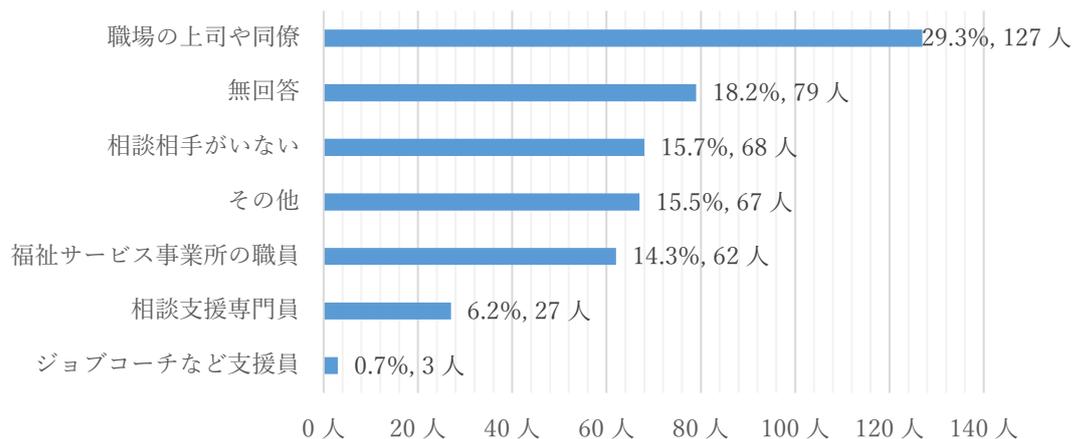
【問22】 【問21】で1の場合、勤務形態について



- (7) 仕事の悩みの相談相手  
 仕事の悩みの相談相手については、図23「仕事の悩みの相談相手」のとおりである。  
 職場の上司や同僚が29.3%と最も多かった。

図23「仕事の悩みの相談相手」

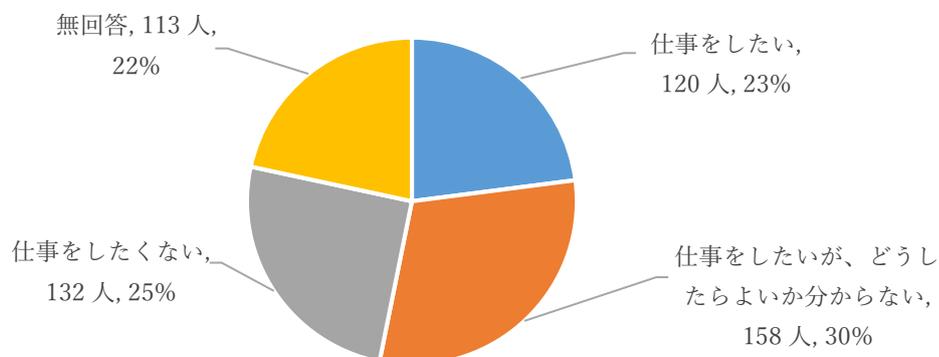
【問23】 【問21】で1の場合、仕事の悩みなど  
 だれに相談していますか？



- (8) 今後の就労意欲  
 今後の就労意欲については、図24「今後収入を得る仕事をしたいか」とおりである。  
 仕事をしたいが、どうしたらよいか分からないが30%と最も多く、次いで、仕事をしたくないが25%と多かった。

図24「今後収入を得る仕事をしたいか」

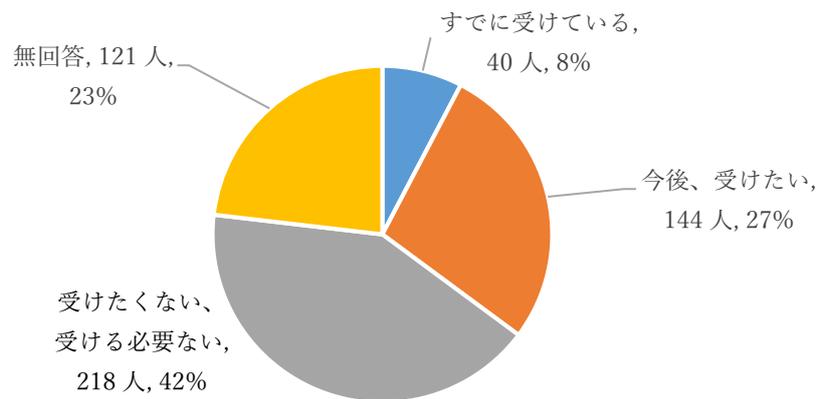
【問24】 【問21】で1以外の18～64歳の場合、今後、  
 収入を得る仕事をしたいと思いますか？



- (9) 資格取得・訓練・講座への意欲  
資格取得・訓練・講座への意欲については、図25「資格取得・訓練・講座への意欲」のとおりである。

図25「資格取得・訓練・講座への意欲」

【問25】 【問21】で1以外の18～64歳の場合、仕事に就くための資格取得、訓練、講座を受けたいと思いますか？

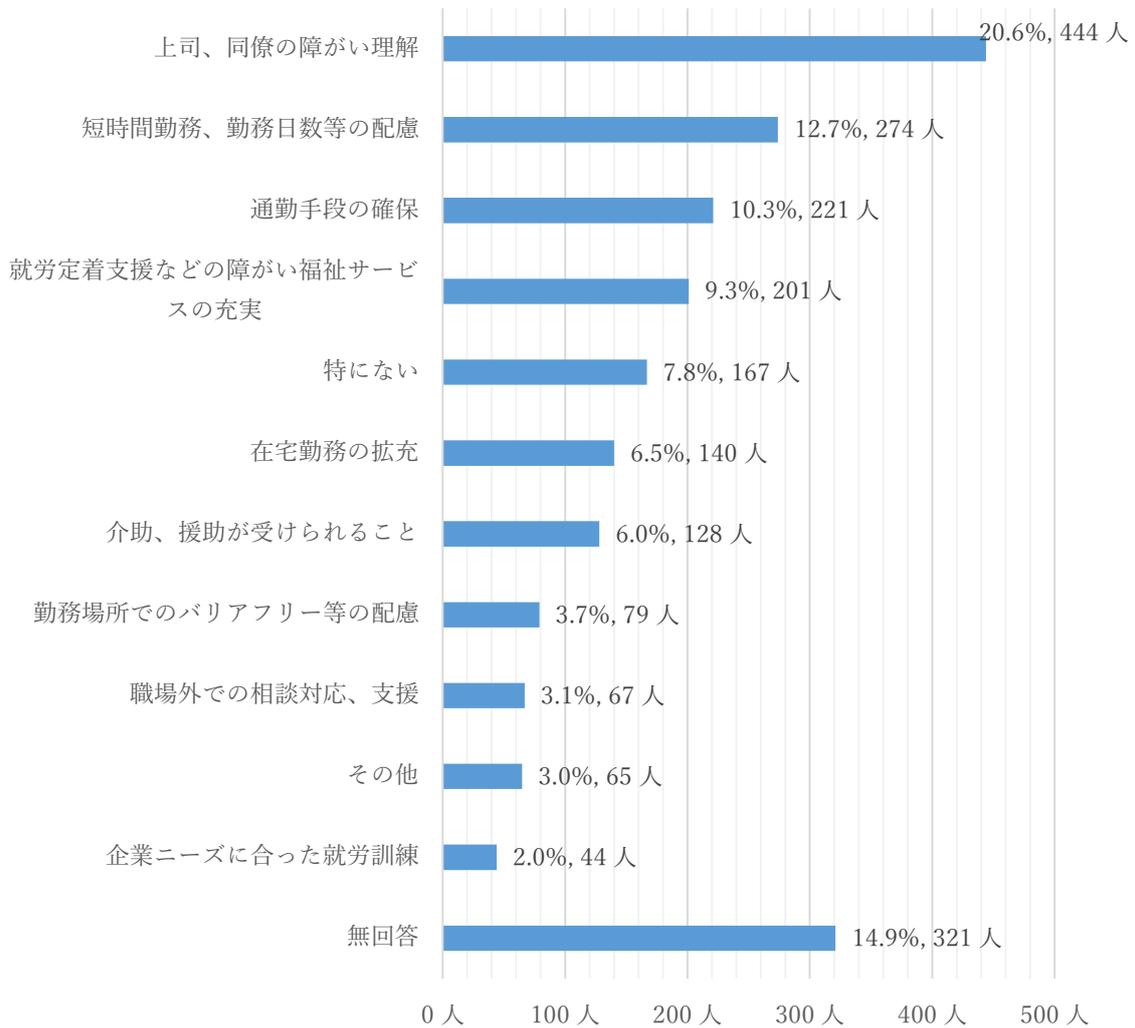


(10) 必要な就労支援

必要な就労支援については、図26「必要な就労支援」のとおりである。上司、同僚の障がい理解が20.6%と最も多く、次いで短時間勤務、勤務日数の配慮が12.7%と多かった。

図26「必要な就労支援」

【問26】 就労支援として必要なことは？



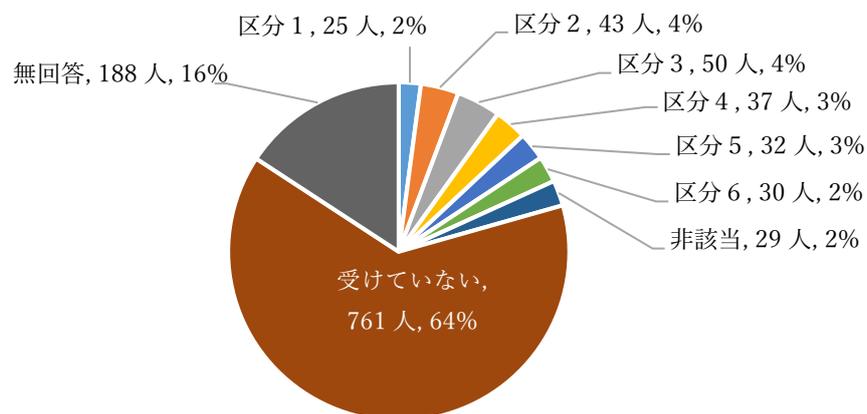
## 6 障がい福祉サービス等の利用について

### (1) 障がい支援区分認定

障がい支援区分認定については、図27「障がい支援区分認定」のとおりである。

図27「障がい支援区分認定」

#### 【問27】障がい支援区分認定について

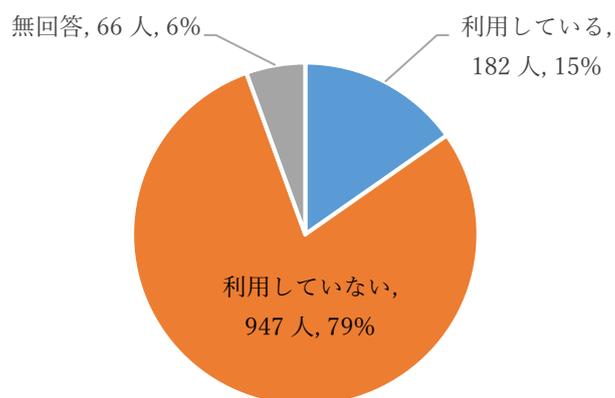


### (2) 介護保険サービスの利用

介護保険サービスの利用については、図28「介護保険サービスの利用」のとおりである。

図28「介護保険サービスの利用」

#### 【問28】介護保険サービスの利用について



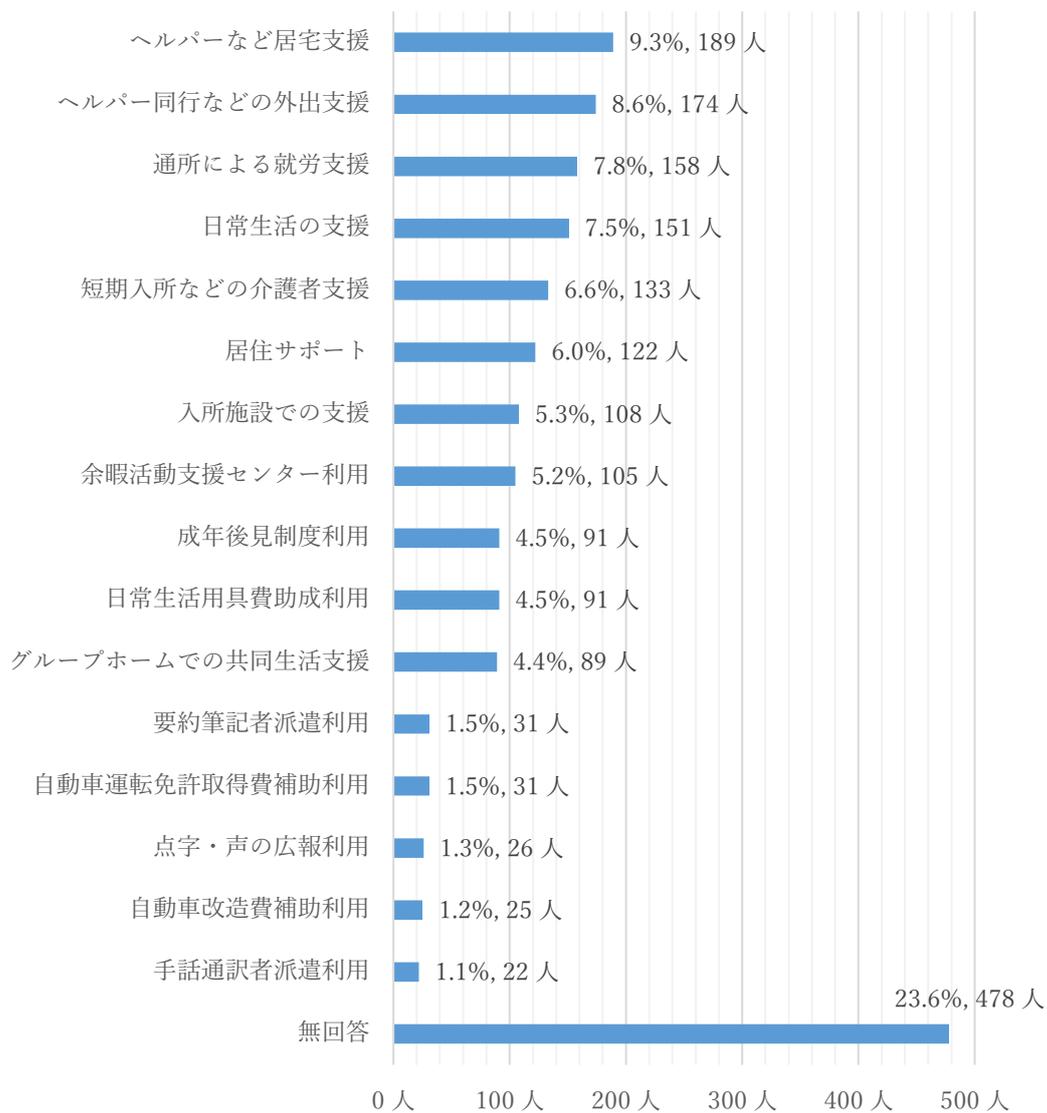
(3) 希望する支援サービス

希望する支援サービスについては、図29「希望支援サービス」のとおりである。

ヘルパーなど居宅支援が 9.3%と最も多く、次いでヘルパー同行などの外出支援 8.6%と多かった。

図29「希望支援サービス」

【問 2 9】 希望支援サービスについて（複数回答）



## 7 相談相手について

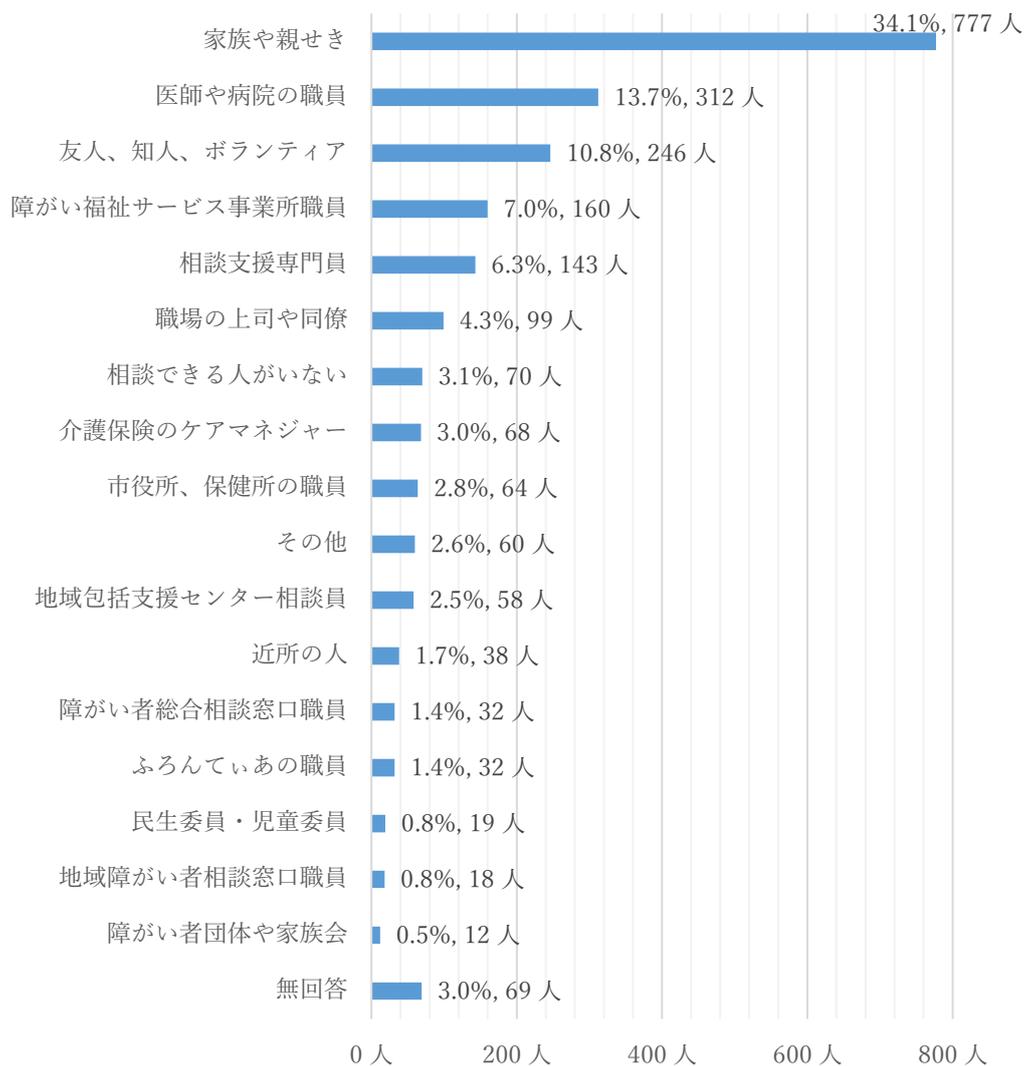
### (1) 相談相手

相談相手については、図30「悩みを相談する相手」のとおりである。家族や親せきが34.1%と最も多く、次いで医師や病院の職員が3.7%と多かった。

図30「悩みを相談する相手」

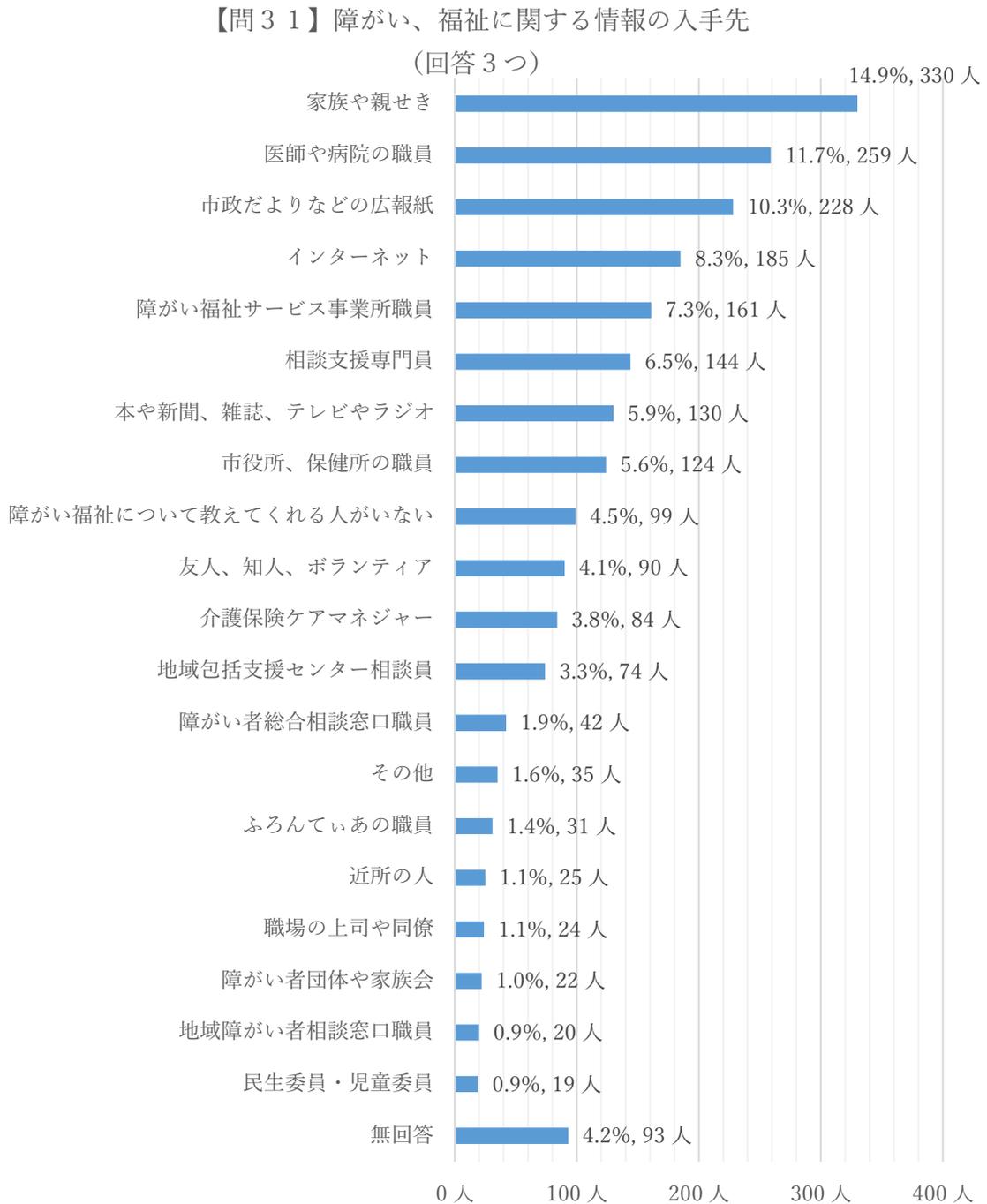
【問30】悩みを相談する相手について

(回答3つ)



- (2) 情報の入手先  
 情報の入手先については、図31「障がい・福祉に関する情報の入手先」のとおりである。  
 家族や親せきが14.9%と最も多く、次いで医師や病院の職員11.7%と多かった。

図31「障がい・福祉に関する情報の入手先」



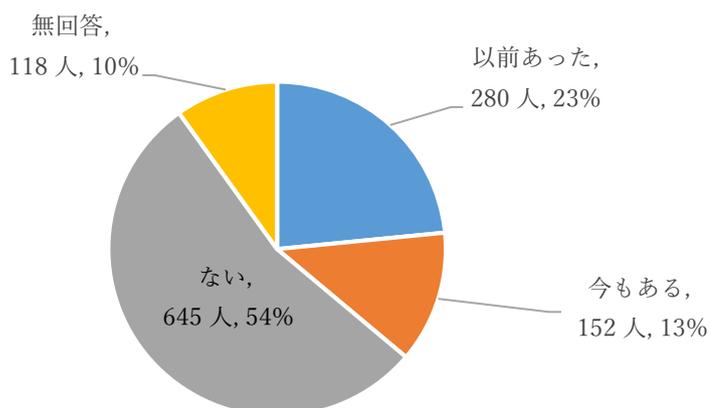
## 8 障がい者への差別などについて

### (1) 差別の経験

差別の経験については、図32「差別の経験」のとおりである。12.7%が今もあると回答している。

図32「差別の経験」

【問32】 差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか？

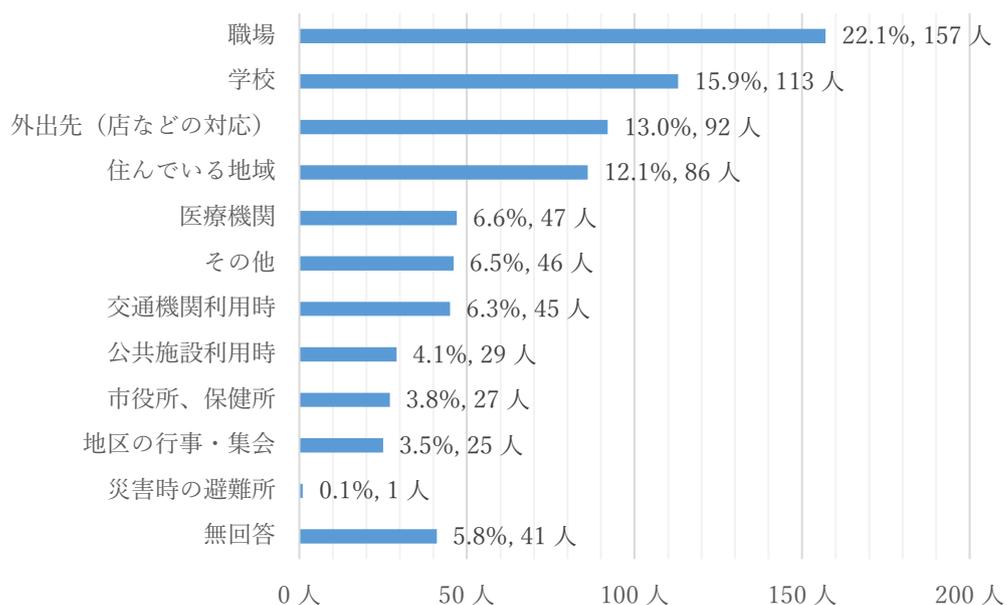


### (2) 差別を受けた場所

差別を受けた場所については、図33「差別を受けた場所」のとおりである。職場が22.1%と最も多く、次に学校15.9%、外出先13.0%の順に多かった。

図33「差別を受けた場所」

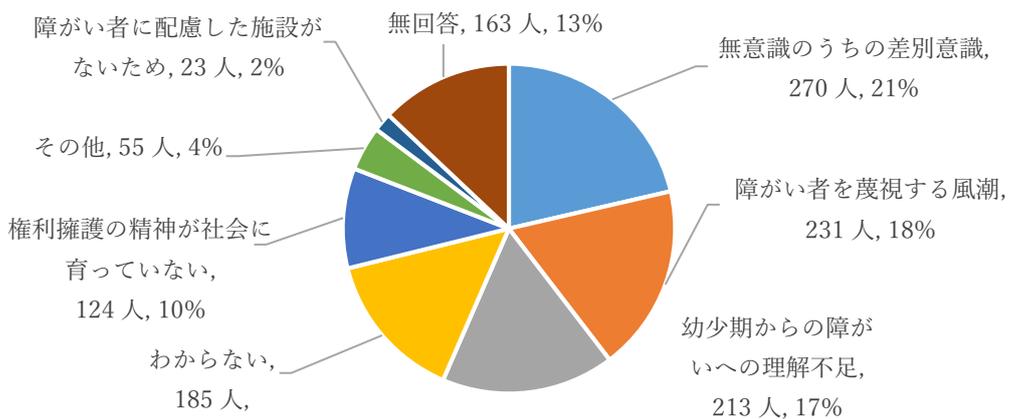
【問33】 【問32】で1又は2の場合、どこで差別や嫌な思いをしたか？（回答3つ）



(3) 差別や偏見が生まれる理由

差別や偏見が生まれる理由については、図34「差別や偏見が生まれる理由」のとおりである。無意識のうちの差別意識が24.9%と最も多く、次いで障がい者を蔑視する風潮が18.3%、幼少時からの障がいへの理解不足が16.9%が多かった。  
図34「差別や偏見が生まれる理由」

【問34】 障がい者差別、偏見が生まれる理由について



(4) 理解促進に必要なこと

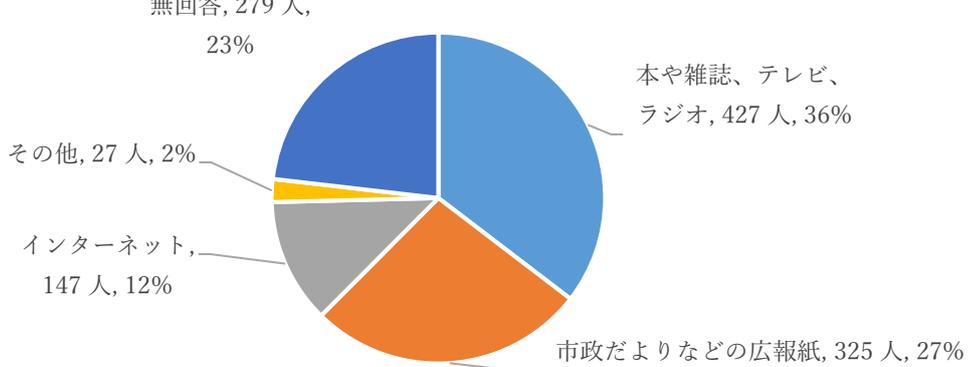
1. 必要な広報活動

必要な広報活動については、図35-1「必要な広報活動」のとおりである。本や雑誌、テレビやラジオが35.4%で最も多かった。

図35-1「必要な広報活動」

問35：障がい者に対する理解を深めるためには

何が必要か？（1）広報活動の充実



## 2. 必要な交流

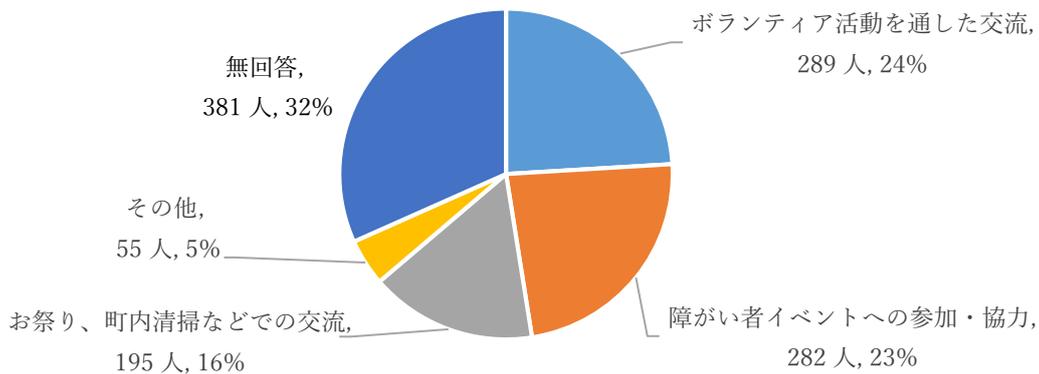
必要な交流については、図35-2「必要な交流」のとおりである。

ボランティア活動を通じた交流と障がい者イベントへの参加・協力が約5割を占め最も多かった。

図35-2「必要な交流」

問35：障がい者に対する理解を深めるためには何が必要か？

### (2) 障がい者と健常者との交流



## 3. 障がい理解に対する啓発

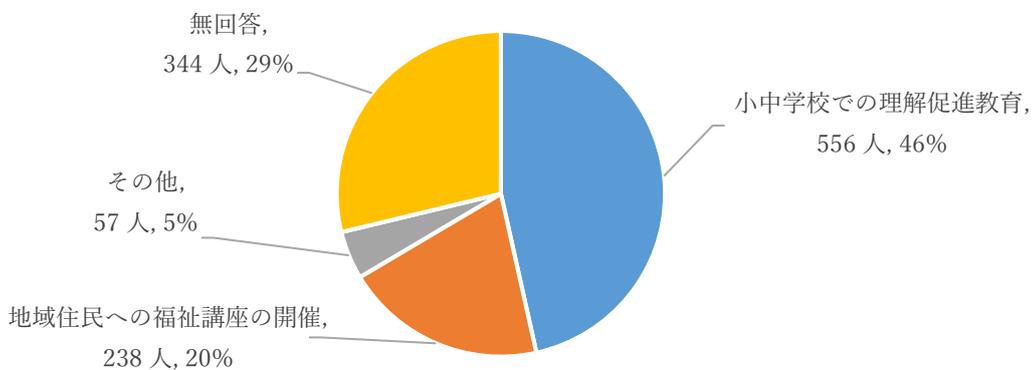
障がい理解に対する啓発については、図35-3「障がい理解に対する啓発」

のとおりである。小中学校での理解促進教育が46.5%で最も多かった。

図35-3「障がい理解に対する啓発」

問35：障がい者に対する理解を深めるためには何が必要か？

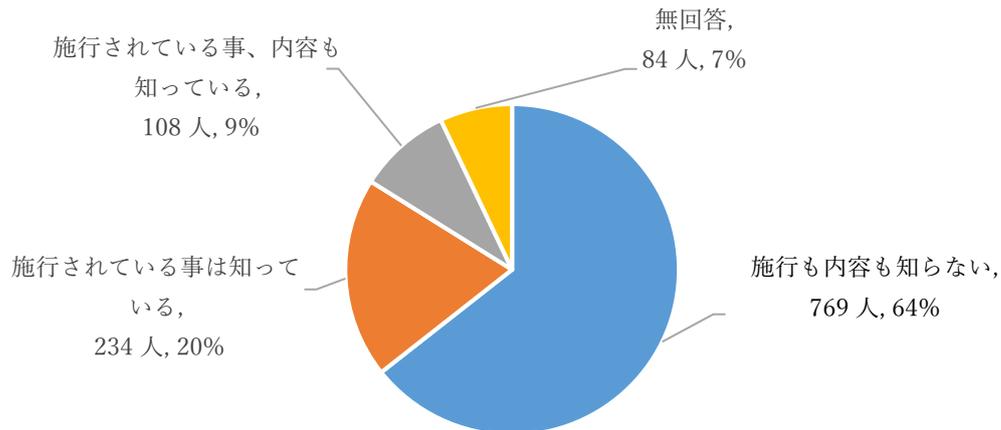
### (3) 障がい理解に対する啓発



- (5) 障害者差別解消法の認知度  
 障害者差別解消法については、図36「障害者差別解消法の認知度」のとおりである。  
 施行も内容も知らないが64.4%と最も多かった。

図36「障害者差別解消法の認知度」

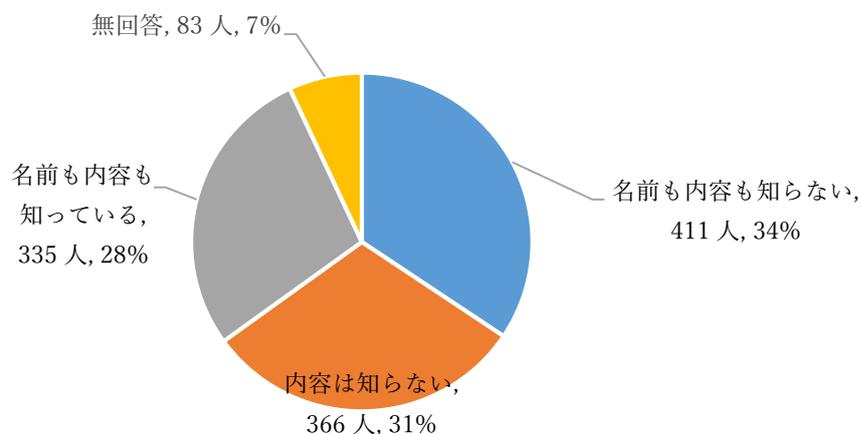
【問36】「障害者差別解消法」について



- (6) 成年後見制度の認知度  
 成年後見制度については、図37「成年後見制度」のとおりである。名前も内容も知らないが34.4%と最も多かった。

図37「障害者差別解消法の認知度」

【問37】「成年後見制度」について



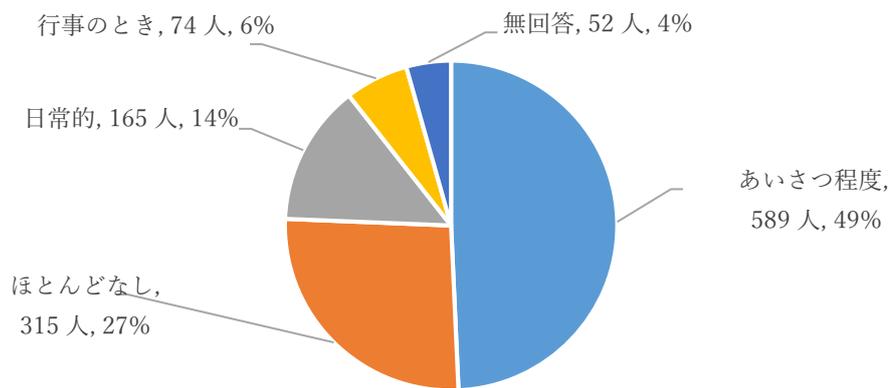
## 9 地域活動について

### (1) 近所付き合いの状況

近所付き合いについては、図38「近所付き合い」のとおりである。あいさつ程度が49.3%で最も多かった。

図38「近所付き合い」

【問38】あなたは近所とのつきあいはどのくらいありますか？

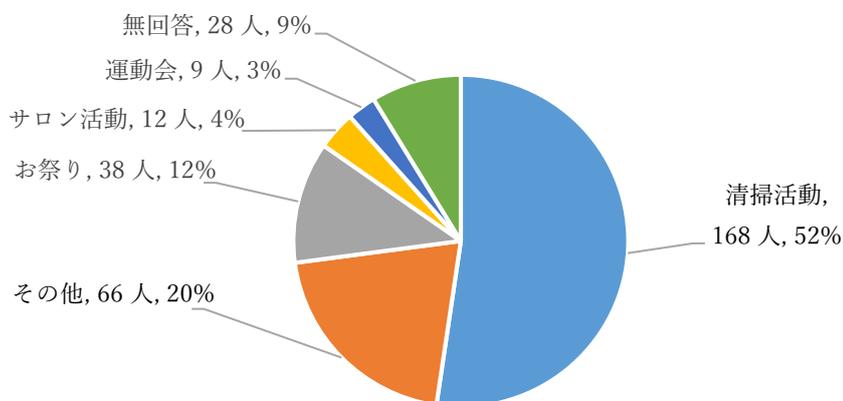


### (2) 参加行事の内容

参加行事については、図39「参加行事」のとおりである。清掃活動が52.3%で最も多かった。

図39「参加行事」

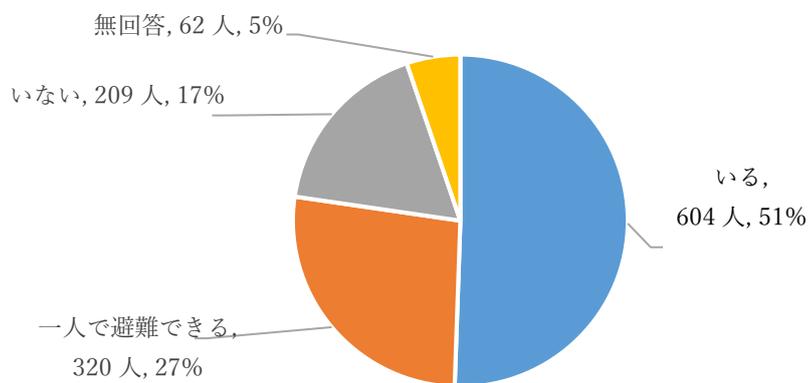
【問39】【問38】で1、2の場合、参加行事(○1つ)



- (3) 災害時避難を助けてくれる人  
災害時避難を助けてくれる人については、図40「災害時避難を助けてくれる人」  
のとおりである。いると回答した方が59.5%で最も多く、次いで一人で避難でき  
ると回答した方が26.8%が多かった。

図40「災害時避難を助けてくれる人」

【問40】あなたは災害発生時に避難を助けてくれる人が  
いますか（回答1つ）



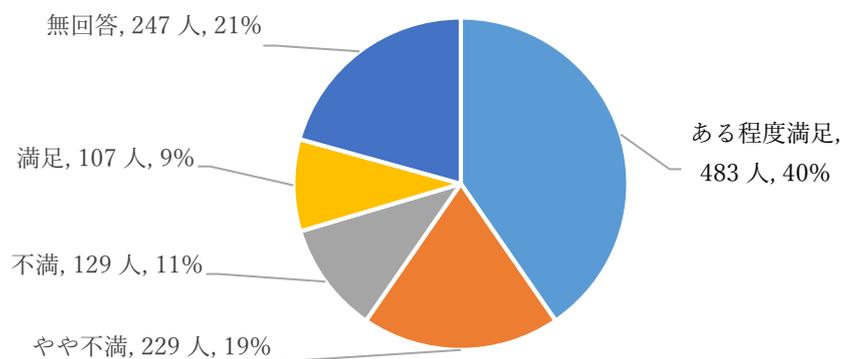
## 10 市の障がい福祉施策について

### (1) 市の障がい福祉施策の満足度

市の福祉施策の満足度については、図41「市の障がい福祉施策の満足度」のとおりである。ある程度満足と回答した方が40.4%で最も多かった。

図41「市の障がい福祉施策の満足度」

【問41】市の障がい福祉施策について  
満足していますか？（回答1つ）



- (2) 本市での生活に必要なこと  
 本市での生活に必要なことについては、図42「本市での生活に必要なこと」のとおりである。経済的支援が12.5%で最も多く、次いで相談体制の整備、安心して住める場所がどちらも10%で多かった。

図42「本市での生活に必要なこと」

【問42】今後、本市で生活する場合、何が必要ですか？  
 (複数回答)

